



平和文化月間

## 平和文化賞の受賞者が決定しました

当財団では、「平和文化月間」の11月に、広島市や広島市教育委員会を始めとする関係機関や団体との連携の下、「平和」への思いにつながる「文化」、いわば「平和文化」の振興を図る様々な取組を集中的に実施することとしています。

この取組の一つとして、広島市教育委員会が毎年募集している「青少年からのメッセージ」に応募のあった作品のうち、日常生活の中で「平和」を願う気持ちが強く感じられる作品を「平和文化賞」として表彰しています。今年度の「青少年からのメッセージ」は、「力を合わせて取り組むということ」をテーマに実施され、多数の応募作品の中から、次の4作品を平和文化賞として決定しました。受賞者には、平和文化月間イベントとして11月18日に開催された「広島市青少年健全育成市民大会」において、表彰状及び記念品の授与が行われました。

### 令和5年度平和文化賞 受賞作品

#### 作文部門

##### 《小学生の部》

袋町小学校6年 吉永 志帆さん 「違いをのりこえるコミュニケーションの力」

##### 《中学生の部》

安佐中学校2年 佐々木 美緒さん 「学ぶこと・向き合うこと」

##### 《高校生・一般の部》

広島大学附属高等学校1年 谷村 咲蕾さん 「協力ってあったかい」

#### 漫画・イラスト部門

東野小学校5年 梅原 実央さん 「思いを一つに」

#### △作文部門 小学生の部△

違いをのりこえるコミュニケーションの力

袋町小学校6年

吉永 志帆

何かについて話し合うとき、必ず違う意見が出てきます。しかし、意見の違いは私達が世界を良くするために大切なものです。友達や家族と意見が異なることもありませんが、解決するにはどうすればいいでしょうか。私はコミュニケーションをとることが大切だと考えています。先日、未来マップを作るイベントに参加しました。途中でSDGsの何番に関心があるか発表する時間がありました。もちろん私と友達で気になった目標は違います。私はなぜこの友達がその番号を選んだのか興味を持ち、理由や考え方を教えてもらいました。そして自分とは違う意見でも相手の話に耳をかたむけ、納得しました。選んだ番号は人それぞれでしたが、発表で分かったことは、SDGsの大きな目標は「世界平和」ということです。今回の体験を通して、力を合わせて取り組むためには、相手の意見を尊重することが大切だと分かりました。人種をこえて様々な人達が同じ目標を目指すには、コミュニケーションが必要で、そして、一人一人の考えを大切にしなければならぬのです。

△作文部門 中学生の部△  
学ぶこと・向き合うこと

安佐中学校2年

佐々木 美緒

私は、人と力を合わせて取り組むとき、学ぶこと・向き合うことが大切だと思います。

広島県の原爆ドームを訪れた外国人のインタビューで、ウクライナの戦争で私たちも他人事ではないと思いついて来たという方がいました。戦争という一つの問題について学び、向き合っていることがよく分かりました。私も小学生のときは、怖いし嫌だなとずっと思っていました。しかし、原爆記念資料館を何度も見るにつれてその重要性について気づくようになってきました。この原爆で韓国人も多く亡くなっているという事実があります。この事実を平和公園に行くまで知りませんでした。

世界を平和にするという問題には人と人との協力は必要不可欠です。一つの問題に対して基礎的な知識を使い、意見を共用し合い行動に移すことで初めて成り立つと思います。そのためには、それぞれがきちんとした情報や知識を学ぶことが大切です。このことから、人と力を合わせるとき、第一段階として学ぶこと・向き合うことを大切にしてみてはどうでしょうか。

△作文部門 高校生・一般の部△

協力ってあったかい

広島大学附属高等学校1年

谷村 咲菫

毎日のように報道される、ウクライナ侵攻。私はどうして罪のない人が傷ついているのだろうかと思っているだけだった。そんな時、記者活動をしている中で運よくエマニエル大使に取材することができ、「若い世代でも世界に影響を与えられる」という言葉に心動かされ、生徒会長としてウクライナ支援募金を提案した。生徒会の仲間や先生方は快く賛同し、私が計画案を作り、仲間は生徒会だよりで寄付を呼びかけ、放課後の時間いっぱい募金箱制作に取り組んでくれた。先生方は寄付金を日本赤十字社に送金してくれた。おかげで無事スムーズに募金活動を行うことができた。寄付してくれた生徒の中には、「このお金で少しでもウクライナの人々を助けることができるんだ」と嬉しそうに言う子もいた。「力を合わせて取り組めば、世界にも影響を与えられる」というエマニエル大使の言葉を実感できた。私は将来、国連の職員になって難民に十分な支援が行き届くような活動をしていきたい。

△漫画・イラスト部門△

思いを一つに

東野小学校5年

梅原 実央

人が1000人いれば、1000パターンの思いがあるけど、めざす目標をみんなで見れば、あえば、かならず思いは一つになるはずだと思う。

